

消防トピックス

男女共同参画都市型消防団

神奈川県横浜市瀬谷消防団

1 はじめに

昭和23年3月7日、消防組織法の施行に伴い、「横浜市消防団」が発足しました。当時の瀬谷消防団は戸塚消防団1団8個分団の創設に伴い、戸塚消防団第四分団として開設されました。そして昭和44年10月19日に行政区再編成により瀬谷区の誕生と同じくして戸塚消防団から分離、独立して瀬谷消防団が創設され、令和元年に創設50年を迎えました。



昭和23年戸塚消防団第四分団時代の写真

1団4個分団、総員253名で創設された瀬谷消防団も現在では、1団、4個分団、14班で構成され、団員数は令和元年5月1日現在で条例規則定員100%の310名となっています。



平成最後の出初式での1枚



平成30年11月1日着用開始の新制服での1枚



平成30年4月1日着用開始の新防火衣での一斉放水

そのうち女性消防団員が73名で23%を占めており、昼夜、火災・風水害・地震が発生したときの災害対応と平常時における地域での防火・防災・応急手当指導・災害に備えた訓

練・資機材点検を実施しています。

2 横浜市瀬谷区について

横浜市瀬谷区は、横浜市の最西部に位置し、大和市や東京都町田市など他の行政区とも隣接しています。人口は約12万人、面積は約17平方キロメートルで横浜市内18区中16番目の大きさです。区内には主要道も多く、東名高速道路や保土ヶ谷バイパスへのアクセスも良いため、区内北部には工場、作業所が多く、それ以外の地域はほぼ住宅地で中高層の共同住宅も多いです。また、平成27年に米軍より返還された旧米軍上瀬谷通信施設跡地があり、地震災害時の広域避難場所として指定されています。



3 継続的な入団促進活動の取組について

(1) 今でこそ瀬谷消防団では条例規則定員に対して100%、310名の団員が在籍していますが、かつては全国の消防団と同じよう

に消防団員は減少傾向にあり、平成24年には270名まで減少しました。平成28年2月に310名まで団員数が充足しましたが、任期満了やサラリーマン団員の転勤等による退団者が多く出るため、充足率100%の維持が難しい状況が続いています。

そこで、瀬谷消防団では瀬谷消防署と連携し、団員確保に向けて積極的な活動を実施していくことになりました。



消防団に関するアンケートを実施している様子

(2) 消防団員による団員募集の意識改革

まず、瀬谷消防団と瀬谷消防署が中心となり、『消防団充実・強化の広報戦略検討会議』を開催しました。幹部団員だけでなく団員一人ひとりに至るまで「団員を増加させる」という目的意識を共有するため、現在の瀬谷消防団における入退団の現状、実態を把握した上で消防団員の入団促進はもちろん、入団後も長く消防団活動に従事してもらうにはどうすればいいのか、各分団、各班の実情を踏まえた上で検討を重ねました。

検討結果を周知する方法として、消防団

長、消防署長連名で協力依頼文(団員不足の現状と積極的勧誘を説明するもの)を全団員に配布し、団員確保の重要性を認識してもらい、団員が友人、知人等を積極的に勧誘できるとともに地域と協力して入団促進を進めていく環境を整えました。

(3) 具体的な実施内容

区内で実施される主要イベントや火災予防広報に足を運び、消防団、消防署が協力して団員募集広報を積極的に行いました。

横浜市瀬谷区では旧米軍上瀬谷通信施設の跡地を利用した瀬谷フェスティバルや上瀬谷魅力実感事業、瀬谷区こどもアドベンチャー 2019せやっこおしごとチャレンジ、瀬谷道路まつりなど区内在住の家族の方がお子さんと一緒に楽しめるイベントが数多く開催されています。イベントに参加する際は、消防団の活動写真パネルの展示や、消防団車両の乗車体験、子ども防火服や子ども消防団活動服の着用体験、団員募集リーフレットや、消防団作成の募集チラシの配布、消防団に関するアンケートの実施など、区民に消防団の活動に少しでも興味を持ってもらえるよう工夫を凝らしながら、団員募集を行っています。



消防団活動を紹介するパネルを展示



消防団員作成の募集ポスター



イベントにて団員募集広報を行う様子



子ども防火服を体験している様子



消防団の小型ポンプ積載車に乗車体験をしている様子

4 特色ある訓練

瀬谷消防団では、「消防団員の基礎的諸能力訓練」や「火災対応総合訓練」、「応急手当指導」など消防団員として必要な知識、技術を習得する訓練をはじめ、特色ある訓練、研修を行っています。特に、ロープ結索や救助資機材の取扱習熟訓練を実施する「消防団員の基礎的諸能力訓練」は瀬谷消防団が発祥で、現在では横浜市全消防団が毎年実施しています。

そのほかにも女性消防団員が初期消火箱に格納されたホースなどを用いて初期消火を実施できるようにすることに主眼をおいた「女性消防団員初期消火箱取扱訓練会」や消防団員としての団結力向上を目的とし、チームビルディング研修や、防災指導や応急手当指導の伝達力向上、手話の講習などを女性消防団員技術向上訓練として、毎年違ったテーマで実施しています。また、これら瀬谷消防団独自のものや特色あふれる訓練は、女性消防団員だけで行うこともあります。こういった訓練は日々変化する情勢に対応するためのものです。



火災対応総合訓練にて放水を実施する様子



訓練開始前に消防職員と訓練内容を検討する様子



火災対応総合訓練にてFCB（ファイヤーコントロールボックス）で火災のメカニズムを確認



消防団員基礎的諸能力確認訓練にて救助隊員に操作方法の指導を受けている様子



消防団員基礎的諸能力確認訓練にて礼式訓練を実施している様子



消防団員基礎的諸能力確認訓練にてロープ結索訓練を実施している様子



女性消防団員初期消火箱取扱訓練会の様子



女性消防団員技術向上訓練（救命講習指導能力向上）での一幕



大規模震災訓練にて救助資機材の取扱訓練を行っている様子



女性消防団員技術向上訓練（チームビルディング）での一幕、全員一緒にスクワットをしている様子

5 これからの消防団と消防署

全国的に消防団員を取巻く環境は世の中の情勢とともに年々変化をしています。横浜市もそれは同様です。消防団員の減少などの深刻な問題はもちろんですが、消防団員としての立場、活動内容、消防団詰所、資機材等、様々な面で瀬谷消防団創設時の50年前とは大きく違ってきました。

そのため、防災機関である消防団と消防署は、地域防災の要として今まで以上に支え合っていく必要があります。

瀬谷消防団では、地域の更なる安全・安心を守り、いつ来るかわからない大規模災害に対応する消防団を作り上げていくため、日々の訓練・研修での研鑽、団員数の充足など様々な課題をクリアできるよう、消防団、消防署が両輪となり、減災活動に努めていきます。



神奈川県消防学校新救助施設デモンストレーション訓練終了後の1枚



静岡県地震防災センターでの防災研修後の1枚

